

さあ、木の世界を探検しよう！

わくわく

木のバビリオン



笑顔まんかい
「サクラちゃん」



スクスクのっぽの
「スギおくん」



モリモリ元気な
「マルタくん」

仲よし小学生3人組

CONTENTS

2020年「地球自然博」開幕	P1
わくわく木のバビリオン	P2
1F/すくすく健康ワールド	P3・P4
2F/心のやすらぎワールド	P5・P6
3F/恵みのエコワールド	P7・P8
しずおか里山体験学習施設	P9・P10



2020年「地球自然博」開幕。

木、海、大地、太陽、緑……。
広々とした会場内には、
自然と環境をテーマにしたパビリオンがいっぱいだ。



世界へ、環境保護のメッセージ

時は2020年。深刻化する地球温暖化の問題を解決するために、ついに世界の国々は手をむすび、CO₂(炭酸ガス)の削減に本腰を入れるようになりました。なかでも、豊かな森林と海にかこまれ、自然の恵みを受けてきた日本では、CO₂を吸収する森林を育んだり、暮らしの省エネルギーを進めたり、家庭から出るゴミの量を減らしたりと、行政と住民、そして企業が一つになつて温暖化対策に取り組んできました。そんな成果が世界から認められて、今年、自然と環境をテーマにした「地球自然博」が日本で開催されることになりました。

自然大好き！仲良し三人組

今日はいよいよその開幕日。入場を待つ人混みの中には、「スギオくん」「サクラちゃん」「マルタくん」の仲良し三人組の姿も見えます。三人はこの近くの小学校の同級生。昆虫や植物が大好きで、小学校ではそろって自然観察クラブに入学しているくらいです。三人の胸にピカピカ光っているのは、自然憲章バッチ。森林の下草刈りや海岸でのゴミ拾い、そんな自然環境を守るボランティア活動に参加している子供たちに贈られるバッチなんです。

高らかに開幕のファンファーレ

いま、音楽隊の奏でるファンファーレが高らかに鳴りひびきました。さあ、いよいよ開幕の時が訪れました。仲良し三人組は開いたゲートから、まっさきに場内へとかけだしていきました。



わくわく 木のパビリオン

空にのびる樹木のようなパビリオン。
扉を開くと、いろんな世界があらわれて、木の魅力を体験できるぞ！

森から生まれたパビリオン

海、大地、太陽、緑と、広々とした会場内には、自然と環境をテーマにした各国の展示館が、ユニークなたちを競いあうように並んでいます。

でも、仲良し三人組のお目あては日本の展示館。世界有数の森林資源に恵まれた日本は、この万博で「木のパビリオン」を出展しているんです。

日本が誇る木の生活文化

思えば、木と日本人の暮らしとは、昔から切っても切れないもの。そんなかけがえない歴史が見直されて、今では街の中にも木の施設が目立つようになってきました。三人組がかよう小学校にも、内装に木が使われていて、級友たちをなごませてくれています。

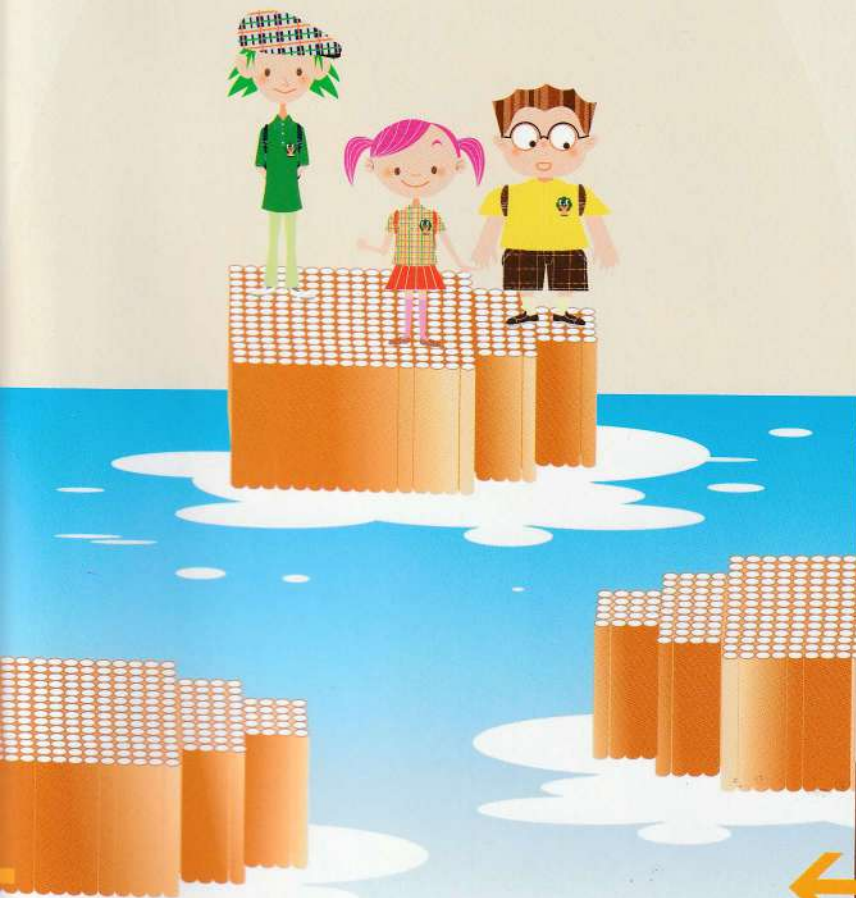
樹木のようにまっすぐ青空へ

「あそこに見えるのが木のパビリオンだ!」。のっぽのスギオくんが、憩いの広場の先に樹木のようにそびえる日本の展示館をまっさきに見つけました。それは、今回出展している各国の展示館の中でも一番の高さを誇るもの。真下に来てパビリオンを見上げると、まるで生命が息づく樹木のように、四方に枝葉を広げ、太い茶色の幹にはガラス窓がいくつもはめられています。三人はわくわくしながら、年輪みたいな丸い入口から中へ入りました。



③ ミクロの世界

木は一つ一つが細長いパイプ状の細胞が集まってできています。セルロースとリグニンという物質から成り立っているこれらの細胞は、壁どうしが強固に結びついているため、木は軽くて強い素材となるのです。



① 太ったマウスと、やせたマウス

木の飼育箱で育ったマウスは、鉄やコンクリートのそれと比べて、発育がよく、とても長生き。イライラした様子もなく、性格もおだやかになります。木の飼育箱は体温が奪われにくく、湿気の吸収もよいので、母マウスも子マウスに乳を与えやすかったのです。



② 木の兵士のカビ、ダニ退治

木は空気中の湿度を一定に保つ調湿性があるので、梅雨どきにみられるカビやダニの発生をおさえてくれます。また、空気の乾燥時にみられるインフルエンザウイルスの飛散が起こりにくくなります。



① 太ったマウスと、やせたマウス

「ようこそ、木のパビリオンへ!」。最初の扉を開くと、太ったマウスとやせたマウスが三人を迎えてくれました。「なぜ、そんなにからだつきがちがうの?」「スキオくんがたずねると、二匹は「育った家が違うからさ」と後ろにある家を指さします。やせたマウスが「ボクの家は金属だから、冷たくてブルブル。お母さんもイライラ気味で、お乳をあまりもらえなかったんだ」。今度はふとったマウスが「ボクの家は木だから、温かくて快適。お母さんから、お乳をいっぱいもらえたんだ」。そう聞いた三人は、あらためて二つの家を見くらべました。

② 木の兵士のカビ、ダニ退治

「同じマウスでも、育った環境でどんなにも違いがでるのね」。サクラちゃんがそういながら、2番目の扉を開きました。とたんに三人は声を上げました。なんと、木の兵士たちが、カビやダニの大群と戦いのまっさいちゅう。はげしく戦っている木の兵士にマルタくんが勇敢にも近づいて、「どうして戦っているの?」とたずねました。「ボクらが守ってあげないと、カビやダニたちが、すぐに家の中を占領してしまうからさ」。木の兵士は、荒い息のうちにもそう答え、また戦いに戻っていきました。

③ ミクロの世界

「家に使われている木は、カビやダニが増えるのを防いでくれていたんだね」。スキオくんがそういながら3番目の扉を開くと、顕微鏡をのぞいたような世界が広がっています。「ここはどこなの?」。サクラちゃんが目をきよるきよるさせていると、「キミたちが立っているのは、ヒノキの細胞組織だよ」と足元から声が聞こえてきます。驚いて下を見ると、たしかに細長い管のような細胞が集まっているのがわかります。「そうか、木は細胞の中の空気がクッションになっているから、軽くて弾力があるんだ」。マルタくんが納得したように手をたたきました。

すくすく健康ワールド

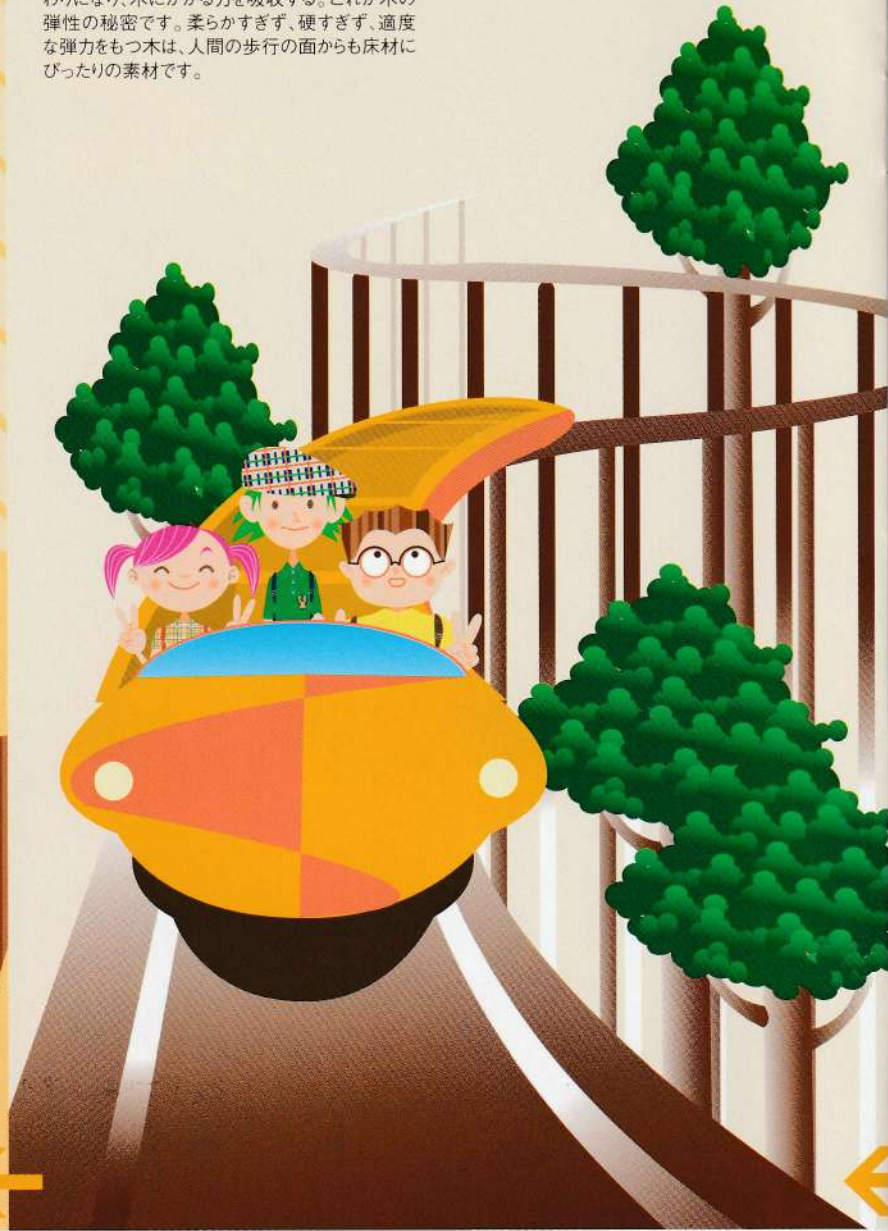
⑥ 木の赤ちゃんランド

木は鉄やコンクリートに比べて熱伝導率が低いため、肌がふれていても体温が奪われにくく、冷たく感じにくいもの。これは、木の細胞の中に空気の層があるため、毛糸のセーターやふとんが温かいのと同じ理由です。



④ 木の遊園地

木の細胞の約70%をしめる空気層がクッションがわりになり、木にかかる力を吸収する。これが木の弾性の秘密です。柔らかすぎず、硬すぎず、適度な弾力をもつ木は、人間の歩行の面からも床材にぴったりの素材です。



⑤ 木の精油の働き

ヒノキ科の樹木などの精油成分に含まれるヒノキチオールには、殺菌、消炎、細胞活性などの効果があり、育毛剤や化粧品に利用されています。さらに食品に添加する化学合成以外の防腐剤としても認可されています。



④ 木の遊園地
四番目の扉の先には、木の遊園地が広がっています。三人は目を輝かせて、木のジェットコースターに乗りこみました。でも、うねりながら伸びるレールを見て、サクラちゃんは「木でできているけど、壊れないのかしら?」と不安そう。そんな様子を見ていた係員さんが「木は弾力があるから、衝撃を吸収してくれるんだよ」と笑顔を向けます。三人が胸をなでおろしたとたん、木のジェットコースターがすごい勢いで走りだしました。山あり谷ありのスリルに悲鳴を上げながらも、三人は木のたくましさからだいたい感じることができました。

⑤ 木の精油の働き
5番目の扉を開けると、白衣を着たおじいさんが頭に液体をかけています。すると、つんつるりんの頭から髪の毛が生えだしてきました。「ねえ、何をかけたの?」と、マルタくんが笑いをこらえながら聞くと、「これは木の成分から、つくった養毛剤なんじゃ」と答えます。「木からそんなものができるの?」。スギおくんが虫メガネを出して、おじいさんの頭をしげしげと眺めます。「長年の研究の成果じゃよ。木の成分にはまだまだ解明されていない不思議があるんじゃ」。そういつて、おじいさんは実験室へ戻っていききました。

⑥ 木の赤ちゃんランド
「次は、どんな不思議に出会えるのかしら?」。サクラちゃんが6番目の扉を開くと、可愛らしい赤ちゃんたちが、広々とした木の床の上で遊んでいます。積み木、木琴、輪投げ、そんな木のオモチャを手にとってみるニッコ顔、まるで、木の温もりに抱かれているかのようです。「この香りと、この肌ざわり、やっぱり気持ちいいなあ」。スギおくんが木の床に寝ころびました。サクラちゃんも、マルタくんも、大の字になって手足を伸ばします。三人は木の温もりの中で、赤ちゃんにかえったようでした。



③ バイオリンマンのコンサート

木は、高音、中音、低音をバランスよく吸収する特性をもっています。木にかこまれた空間が音楽を聞くのに適しているのは、音のかたよりと、耳ざわりな残響が少ないからです。



① 太陽くんの光線攻撃

木の光の反射率は約50%。これは木の表面にある細かな凹凸が光を拡散してくれるからです。さらに有害な紫外線の反射をおさえ、赤外線をよく反射するという特性があるので、目や肌への刺激が少なくて済みます。



② 木目の呪文

木目の模様は一定ではなく、不規則な自然のリズムをもっています。これは工業系の建材にはみられないもので、人にやすらぎを与える視覚的な効果を生んでくれます。



① 太陽くんの光線攻撃

三人は木のエレベーターに乗って2Fへ上がりました。最初の扉を開くと、そこはどっかい太陽が照りつける砂漠のような世界。「肌が焼けるように熱いよ」。スギオくんが悲鳴を上げたとき、突然、砂けむりが舞い上がり、大きな木のバラソルがあらわれきました。「強い日光には有害な紫外線が多いから、早くこの中へ」とバラソルが叫びます。あわてて三人が傘の下にかけこむと、「ここなら安心。木は紫外線を吸収するからね」。バラソルはそういって、さらに傘を長く伸ばします。おかげで三人は強い日光に当たることなく、二番目の扉まで行くことができました。

② 木目の呪文

2番目の扉の先は、木の壁しかないがらんだの部屋。じっと壁の木目を見つめていたスギオくんが「不思議と、気持ち落ち着くなあ」といいだしました。「トンボの目の前で、渦巻きをつくると、きまって目を回すのにな」と、マルタくんも木目の渦巻き模様を指でなぞります。すると、とつぜん、壁が口を開いて、「気持ちが安らぐのは木目の模様が人工的ではないからさ」と種明かしをしてくれます。それは自然の世界に見られるリズムのようなもので、川のせせらぎや小鳥のさえずりにも、そんなリズムがあるんだそうです。

③ バイオリンマンのコンサート

3番目の扉を開いてみると、木のホールでバイオリンマンがコンサートをしていました。「まあ、なんて、きれいな音色」。客席にすわったサクラちゃん聞きほれていて、子守歌みたいに心地よかつたのか、隣のスキオくんとマルタくんは高いびき。サクラちゃんが、足元に落ちていたコンサートのプログラムを開いてみると、そこに木の音響効果のことが書かれていました。「そうか、木は音をバランスよく吸収してくれるのね」。その大声に、居眠りをしていた二人も飛び起きました。

心のやすらぎワールド

⑥ メンバのお弁当箱

ほのぼのとした手作りの味わいがある「メンバ」のお弁当箱は、ヒノキの薄板を曲げて、そのつなぎ目にサクラの木の皮を当てて縫い合わせたもの。表面に塗られた漆が、美しい光沢と耐久性を与えてくれます。



⑤ 魔法の香り、フィトンチッド

森林浴がからだによいとされるのは、樹木が放出するフィトンチッドにあります。この樹木の匂いの成分には、人間の自律神経や脳波、免疫機能により働きがあり、森林を心身のリフレッシュの場に変えてくれます。



④ 木の家の骨組み

木を活かす知恵と技を結集させた木造軸組住宅は、政府のアンケート調査でも、日本人の建てたい住まいのNo.1。補強金具や筋交いなどの耐震工法を取り入れながら、未来へと日本の住文化を伝えています。

④ 木の家の骨組み

4番目の扉を開くと、のこぎり、金つち、カンナなどの大工道具が木の家を建てていました。威勢のいい音をひびかせながら、木の柱やハリが組まれていきます。「これは、何ていう建て方なの?」工作好きのスギオくんが、木材を削っていたカンナにたずねました。「へん!これこそ、木を活かす木造軸組(じくぐみ)工法さ」と、カンナはけずりクズを飛ばしながら答えます。近くで見ると、木を組み合わせた所を金具で止めてあったり、壁には斜め材が入っていたり、ずいぶんと頑丈そう。「伝統の工法も、さらに進化しているのさ」。カンナは自慢げに胸をはりました。

⑤ 魔法の香り、フィトンチッド

5番目の扉の先は、深い森が広がっていました。色とりどりの花、小鳥たち、小川まで見えます。「そういうえば、森林浴って、森の中で何を浴びることなの?」。森の道を歩きながら、サクラちゃんがたずねますが、スギオくんも、マルタクくんも、首をひねるばかり。すると小鳥がサクラちゃんの肩にとまって、「森林浴は、フィトンチッドを浴びることだよ」と教えてくれました。フィトンチッドというのは樹木が出している匂いのもので、からだにいい効果があるとのこと。「だから、森の中は気持ちいいんだ」。三人は、思わず深呼吸をしました。

⑥ メンバのお弁当箱

しばらくすると小高い丘に出て、おいしそうなお弁当を売っている売店がありました。ちょうどお腹がすきはじめていた三人は、お弁当を買ってきて、木のベンチに並んで腰かけました。「このお弁当箱、変わっているわね」。「金属ではないし、ビニールの樹脂でもないよね」。「でも、中のご飯はふつくらしているぞ」。そんなことを言いあっていると、「それは木でできたメンバのお弁当箱よ」と売店のおばさんがほほえみかけます。「お弁当箱もおかずも手作り。だから一味違う味わいがあるのね」。サクラちゃんのほったが落ちそうでした。



③なんと八百歳！ 木の長老

温暖化STOP3効果→**③** 木材のCO₂固定化

木は伐られて木材となってからも、成長しているあいだに吸い込んだCO₂（炭酸ガス）を体内にたくわえ続けてくれます。木の家をたくさん建てて、そこに長く住み続けることはCO₂のストックにつながります。

① CO₂（炭酸ガス）を吸い込む掃除機

温暖化STOP3効果→**①** 森林のCO₂吸収

森の樹木は光合成によりCO₂（炭酸ガス）を吸収し、酸素を供給してくれます。老木ではこの吸収力が落ちるため、生長した木を伐り、新たな若木を育てることが、森全体のCO₂の吸収力を高め、地球温暖化の防止に役立ちます。



②けむり、もくもく、ストップ!

温暖化STOP3効果→**②** CO₂の排出抑制(木材の省エネ生産効果)

木材は、森から伐りだされた原木にあまり手を加えることなく生産できます。鉄やコンクリートなどの工業系建材に比べて、生産に必要なエネルギー量が少ないため、空气中に放出されるCO₂（炭酸ガス）の量も低レベルです。



① CO₂（炭酸ガス）を吸い込む掃除機

木のエレベーターは3階へと昇っていきます。最初の扉を開いたとき、三人はムツとする暑さに包まれました。「まるでサウナみたい！」。サクラちゃんが悲鳴を上げたとき、ゴ〜という音をたてて、大きな木の掃除機が熱い空気を吸い込みはじめました。反対におしりからは涼しい空気を吐き出しているようで、気温が下がってきます。「あの木の掃除機は、光合成をしているんだよ」。ひらめき顔のマルタくんは、「そうか、気温を上げるCO₂（炭酸ガス）を吸いこんで、酸素に変えているのか」と、スキオくんがあいつちを打ちます。二人は理科で習った光合成の働きを覚えていたんですね。

②けむり、もくもく、ストップ!

2番目の扉を開くと、たくさんの工場が並んでいます。でも、工場ごとに出る煙の色や量が違うので、作業員さんにその理由をたずねると、「つくっているものが違うからだよ」と三人を見学に連れていってくれました。鉄、コンクリート、アルミニウムと、工場ごとにいろんなものをつくっていましたが、少ないエネルギーで製造していたのは木材工場でした。「木材は、加工がらくちんだから、環境に負担が少ないんだよ」。作業員さんはそういって、木の工場に省エネマークを貼りつけました。

③なんと八百歳！ 木の長老

3番目の扉の先には、風格たっぶりの木の長老がそびえたっていました。「おじいさんは、何歳?」。サクラちゃんが「こわ〜」とたずねると、「ちよ〜ど八百歳!」じゃが、驚くことなどない。木の中には千年以上も生きとるものもある」と。と余裕しやくしゃく。「でも、木は伐られたらおしまいじゃないか」とマルタくんがいかえすと、「違うな、木は二度生きるとも。その証拠に木材となっても、何百年と強度が落ちんのじゃ」。そういって高笑いする長老に、三人は目を丸くしました。

恵みのエコワールド

⑥ 木材資源のエコ活用

CO₂（炭酸ガス）をたっぷり吸収した木を伐り、新たな苗木を植える。伐られた木は住まいに姿をかえて都市でCO₂をたくわえ続けてくれる。木を活用することで、地球温暖化を防止する資源の循環が生まれます。



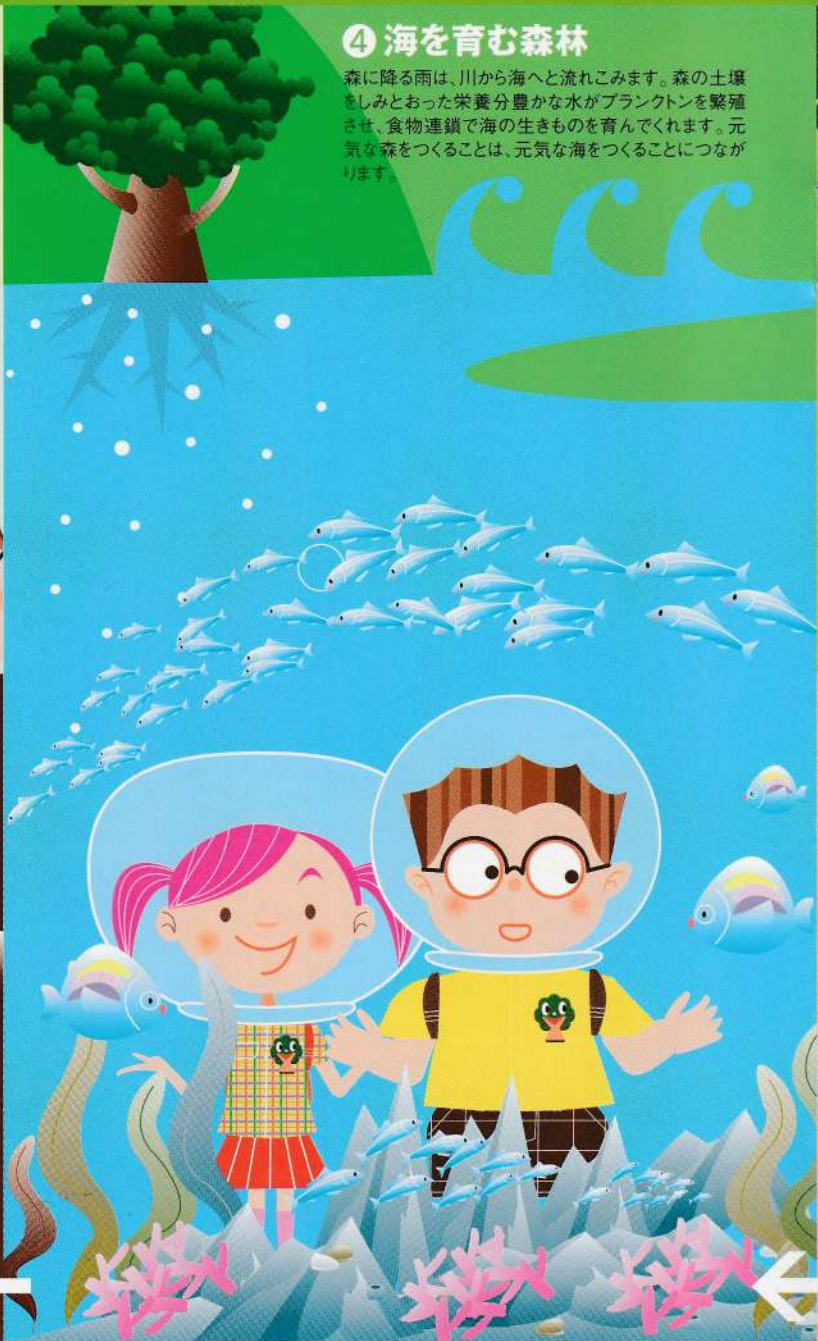
⑤ 緑のダムくん

森に降った雨は、まず地面をおろし落ち葉や草などに吸収され、徐々に地中へと浸透していきます。このため、雨が降り続いても洪水が起これにくく、日照りが続いても川の水が涸れてしまうこともありません。また、土をしっかりとかかえこむ樹木の根が、土砂災害の発生を防いでくれます。



④ 海を育む森林

森に降る雨は、川から海へと流れこみます。森の土壌をしみとおった栄養豊富な水がプランクトンを繁殖させ、食物連鎖で海の生きものを育ててくれます。元気な森をつくることは、元気な海をつくることにつながります。



④ 海を育む森林

4番目の扉の先は海の世界、いろんな魚が元気よく泳いでいます。「木のパビリオンに、どうして海が出てくるの?」サクラちゃんが首をひねっている、魚たちが寄ってきて、「海と森は一つにつながっているからだよ」と教えてくれます。魚たちは、川が運んできた森の水が、じぶんたちのエサを増やしてくれるというのです。「そうか、海と森とは友達とうしなんだ。ぼくもタイプは違うけど、こんなに仲良しなんだしね」と、スギオくんが口から白い歯がこぼれました。

⑤ 緑のダムくん

5番目の扉を開くと、大きな緑色のダムがあって、口を開いたり、すぼめたりしながら、川に吐き出す水の量を調節しています。「あなたは、だあれ?」とサクラちゃんがたずねると、「ボクは緑のダム。森林が姿をかえたものなんだよ」と答えます。三人は森林がダムと同じような働きをしていることを知って驚きました。でも、森林が荒れてしまうと、そんな働きができなくなるというのです。「キミたちも元気な森づくりのお手伝いをしてよ」。緑のダムからそういういわれ、三人は大きくうなずきました。

⑥ 木材資源のエコ活用

いよいよ、このパビリオンの最後の扉を開きました。中へ入った三人は、人の手によって育てられている人工林を目にしました。そこは、時間の流れがとても早く、苗木が植えられ、生長して伐られ、また苗木が植えられていく、そんなサイクルが手にとるようにわかります。「そうか、木は無くなることのない資源なのね」「そのうえ、炭酸ガスを吸収し、とじこめ続けてくれるんだ」。「しかも、木材は省エネルギーでつくれるしね」。そんな木と森の働きがのびのびと三人の目には、時間は流れているのではなく、やさしさの中を回り続けているようにも見えました。

県民参加の森づくりを進めている静岡県には、地域の自然の生態系をいかした里山体験学習施設があります。森を愛することは、まず森の魅力を知ることから。そんなことを気づかせてくれる施設の中には、きっと、驚きと発見に満ちたわくわくする世界が広がっていることでしょう。



榛原 ふるさとの森

四季折々の表情に
彩られながら、
日々の暮らしの先に感じる、
森林の山里。

問い合わせ先

静岡県志太榛原農林事務所森林整備課
〒426-0075 静岡県藤枝市瀬戸新屋362-1
TEL.054-644-9243
HP:<http://kankyou.pref.shizuoka.jp/haibara/index.htm>



木々に抱かれた昔懐かしい里山の風景。

「榛原ふるさとの森」は、静岡県の中中部、牧之原市の北部に位置する森の恵み豊かな地域。ここは以前、薪炭(まきたん)林や採草地として近隣の住人に利用されてきた樹林と湿地と草地をもつ里山でしたが、長期間の放置により、里山本来の働きが失われつつありました。そこで昔から生息していた動植物を守り、貴重な里山の自然を再生するために整備されたのが「榛

区域である「サンクチュアリゾーン」は、動植物の生態系がそのまま残る聖域ゾーンとなっています。

変化にとんだハイキングコースも充実。

「榛原ふるさとの森」には、谷津田の生き物観察コース、大久保の棚田コース、ふるさとの森展望コースなど、目的に合わせたウォーキングルートが用意されていて、歩く先々で変化にとんだ里山の風景を目にすることができます。また、事前に申込みをおこなえば、「調べる・学ぶ・参加する」を三本柱に、さらに一歩踏み込んだ体験学習ができるようになっています。

たとえば、「調べる」をテーマに、植物や昆虫などの生態を観察したり、また「学ぶ」の一貫として、学校の授業や野外活動の場として利用したり、そして「参加」を目的に、樹木の間伐や下草刈り、郷土種の植樹や、棚田での稲栽培を体験したりと活用度は広範囲。懐かしさとやすらぎにあふれる「榛原ふるさとの森」は、大人から子供まで、都会の喧噪をひととき忘れる自然のフィールドとなることでしょう。



原ふるさとの森」。その面積は約25ヘクタール(25万㎡)にもおよび、スギ、ヒノキ、アカマツなどの樹林や、棚田、そして谷津田の素朴で味わい深い田園風景が広がっています。

多彩なゾーンで里山の豊かな自然を体験。



敷地内は、「自然ふれあいゾーン」、「研究・教育ゾーン」、「サンクチュアリゾーン」の3つのゾーンに区分され、里山の持つ多彩な自然に出会える施設づくりをおこなっています。まず、「自然ふれあいゾーン」は、里山の自然環境に親しんでいただく区域として、山の傾斜地を利用した棚田や、谷間を開墾してつくられた谷津田、季節に合わせて様々な草花が顔をだす「彩りの草地」などがあります。「研究・教育ゾーン」は里山の自然環境を観察したり、研究したりする区域で、間伐や枝打ちをして整備したヒノキ林と手入れをしないで放置したヒノキ林との違いが見られる「植えたままの林」などがあります。さらに立入禁止



① かつての山間の稲作がしのばれる大久保の棚田 ② アカマツの再生を目指して植えられた苗木 ③ 手入れと放置、その違いが見られる植えたままの林 ④ 谷間に再現されたなぎの沢の谷津田 ⑤ 太丸太づくりのなぎの沢門 ⑥ 水田に水を供給するためのまぼろしの池

豊かな森の自然に親しむ しずおかの「里山体験学習施設」



問い合わせ先

静岡県中部農林事務所森林整備課
〒422-8031 静岡県静岡市駿河区有明町2-20
TEL.054-286-9061
HP:<http://kankyou.pref.shizuoka.jp/mori/topics/nakanihondaira.html>

里山は人と自然をむすぶ身近な森林地域。

里山とは、人の住む地域に隣接した山や森林などの自然環境のこと。以前は薪(たきぎ)を切りだしたり、山菜やキノコを採集したり、昆虫や沢の生きものをつかまえる子供たちの遊び場であったり、地域住民の生活と切り離せないものでした。



そんな里山を再現するとともに、森林環境教育の拠点施設として静岡県が整備を進めたのが「遊木の森」です。景勝地として名高い中日本平の一角、有度山丘陵に広がる約18ヘクタール(18万㎡)の広葉樹林地帯です。

いつ来ても新しい発見がある自然のフィールド。

「遊木の森」は、「谷戸部」と「はらっぱ部」に分かれています。「谷戸部」には、畑を耕し、大根やニンジンなどの野菜を育てる「谷戸ゾーン」、木登りや森の基地づくりが楽しめる「わんぱく体験ゾーン」、山菜などの自生植物が豊富な「はぐくみの森ゾーン」があります。一方、「はらっぱ部」はその名のとおり、子供たちが思いっきり走り回れる草地が広がっており、たくさんのバッタのすみかや、カブトムシやクワガタなどの昆虫採集にうってつけの「カブトクワガタの森ゾーン」があります。敷地内には、あずまや、作業小屋、里の家などの木の施設があり、休憩や森林に関する様々な学習会などに利用されています。



小高い森、はらっぱ、耕作地、そして体験施設。
山間の地形を利用して、変化にとんだ里山を再現。



みんなでつくる里山へ、民間主導の施設運営。

「遊木の森」の注目すべき点は、NPO(民間の非営利組織)、地域、行政がそれぞれの役割を分担し、NPOに施設の運営を任せていることです。民間が利用者の立場から望ましい施設の在り方を考え、みんなで力を合わせてそれを実現していく。木や森に詳しいスタッフや、里山での生活の知恵、地域の歴史や文化を知る住民たちも、施設運営に参加して、じぶんたちの経験や知識を活かせることに目を輝かせています。



さらに、この施設の特徴は、団体で事前に予約をすれば、スタッフが

フィールドを利用した体験プログラムを用意してくれるということです。

普段、自然に接することが少なくなった子供たちにとって、ここは豊かな森林の国への入口。街の中心地から気軽にアプローチできるこの施設は、自由でオープンな里山体験、そして森林環境教育の拠点施設として大きな期待を集めています。



- ① 入口に立つトーテムポール風のオブジェ ② 緑風が吹き抜ける作業小屋 ③ 作業小屋の後ろの体験エリア ④ 木の香が漂うログハウス風あずまや
⑤ 山中で枝葉を広げるスタジイ ⑥ 山の頂から眺める里の家



けん木れん

静岡県木材協同組合連合会
静岡県木材青壮年団体連合会

〒420-8801 静岡市葵区迫手町9番6号 県庁西館9階
TEL.054-252-3168 FAX.054-251-3483
e-mail : s-mokuren@mail.wbs.ne.jp
http : //www2.wbs.ne.jp/~smokuren

※本資料の無断転載を禁じます。

